

## 旭市国土強靱化地域計画脆弱性評価シート 記入要領

## ◇STEP 1 地域を強靱化する上での目標の明確化

- ・基本計画における「基本方針」、「事前に備えるべき目標」に即して設定  
(策定方針で設定済み)

## ◇STEP 2 リスクシナリオ（最悪の事態）、強靱化施策分野の設定

- ・想定するリスク  
首都直下型地震、南海トラフ地震、千葉県東方沖地震、津波、液状化、崖崩れ、竜巻、台風等による風水害（暴風、高潮、豪雨等）とする。(策定方針で設定済み)
- ・想定したリスク及び本市の地域特性を踏まえて「起きてはならない最悪の事態」(26項目)を設定(企画政策課で済み)

## ◇STEP 3-1 地域を強靱化する上での現状分析

- ・脆弱性評価シート（以下、「マトリクス」という。）STEP3-1にシナリオを回避する為のプログラムの現状（後期基本計画に掲げる「施策の展開」）を記載します。
- ・縦軸は、旭市で想定する「プログラムにより回避すべき起きてはならない最悪の事態」で、横軸は、旭市後期基本計画における6つの「基本方針」と、3つの「旭市が抱える横断的課題」とします。(STEP2で設定)
- ・マトリクスの横軸に記載された基本方針に対応した「施策の展開」の番号と内容を、縦軸に記載された26の起きてはならない事態（STEP1で設定）の該当すると思われる箇所に記入します。(青字記載例参照)
- ・上記のほか、後期基本計画に施策の展開として記載がないもので、関連のある施策がある場合は「◆」（黒ダイヤ）とし、施策名を追記してください。
- ・各課において該当のない項目は、空欄とします。

## ◇STEP 3-2 リスクシナリオの設定

- ・「プログラムにより回避すべき起きてはならない最悪の事態」ごとに、各課で想定される具体的なリスクシナリオを記載するとともに、想定規模についても記載願います。（青字記載例参照）
- ・既存計画等で既に具体的な想定を行っている場合はそちらを利用してください。
- ・想定規模については、できるだけ定量的、具体的に記載するとともに、算出の根拠を示してください。
- ・各課において該当のない項目は、空欄とします。

## ◇STEP3-3 脆弱性の分析・評価、課題の検討

### ①プログラムの現状整理

- ・STEP3-2 で設定したリスクシナリオが自動的に転記されます。
- ・個別施策分野のマトリクスには、個々のリスクシナリオに対して、横軸の施策分野・横断的施策分野ごとに各課が担当する「既存の施策」を整理していきます。（ここで言う、「既存の施策」とは、基本的に後期基本計画に掲げる個別事業とします。）
- ・上記のほか、後期基本計画に施策の展開として記載がないもので、関連のある施策については「◆」（黒ダイヤ）とし、事務事業評価上の基本事業名を追記してください。
- ・各課において該当のない項目は、空欄とします。

### ②プログラムの脆弱性評価（企画政策課で行います）

- ・「定性評価」欄では、現状整理結果を踏まえ、各シナリオリスクに対する既存のプログラムの脆弱性を定性的に評価します。
- ・さらに、リスクシナリオの「影響度」「緊急度」に関する定量的な評価、および既存プログラムの達成度評価結果から、脆弱性の最終的な定量評価を行います。

## ◇STEP4 リスクへの対応方針の検討

### ①推進方針の策定（企画政策課で行います）

- ・脆弱性評価結果は、STEP3-3 の結果から自動転記されます。
- ・各リスクシナリオの脆弱性評価結果を踏まえ、STEP1 で設定した目標を達成する為に必要なハード面／ソフト面の対応をまとめた「プログラム推進方針」を策定します。
- ・脆弱性評価結果を踏まえ、個別施策分野別の「施策分野の脆弱性評価」、「分野別推進方針」を策定します。
- ・プログラムごとの進捗状況を管理するための重要業績指標（KPI）を、国土強靱化基本計画で設定されている指標に沿って設定します。

## ②リスク対応方針の検討

- ・プログラム推進方針、「施策分野推進方針」を踏まえ、具体的なリスク対応方針（今後取り組むべき個別事業等）を施策分野ごとに検討します。
- ・国の脆弱性評価結果を参考とし、旭市の地域特性に留意のうえ対応方針を設定します。

## ◇STEP5 対応方針について重点化、優先順位付け（企画政策課で行います）

### ①プログラムの重点化・優先順位付け

- ・STEP3-3 で実施した脆弱性評価結果から、「起きてはならない最悪の事態」に関するプログラムについて、リスクレベル（STEP3-3 の定量評価結果）を基準に重点化、優先順位付けを実施します。

### ②対応方針の重点化・優先順位付け

- ・①プログラムの重点化・優先順位付けで選定された優先プログラムに関して、STEP4 で検討した各施策を平時活用／有事利用の両面から評価し、重点化・優先順位付けを行います。
- ・定量的な評価方法として、
  - 1) リスク低減効果・・・各施策の実施によるリスク低減効果を、脆弱性評価と同じ手法で評価。
  - 2) 「平時の取組目標」への効果
    - ・・・有事の対策が、平時の取組目標にもたらす副次効果を分析することで優先付けの評価を行う。
  - 3) 施策実施概算コスト
    - ・・・各個別施策の実施にかかる概算コストを算定することで、施策の費用対効果を評価する。

以上3つの定量的評価を総合的に判断し優先すべき施策を選定する。

### ③既存施策見直し方針の策定

- ・選定された優先施策に関して、既存の個別計画等における施策との整合性を評価し、必要に応じて既存計画等の見直しを行います。